

道徳科学習指導案（第2学年A組）

R1年11月14日（木）1限

- 1 主題名：なみだ
- 2 内容項目：B(9)相互理解、寛容
- 3 本時のねらい：主人公の気持ちの変容を考えることを通して、相手の立場を理解して広い心をもって接するとともに、自己の向上に努めようとする心情を育てる。

	生徒の学習活動及び発問・予想される生徒の反応	・留意点 ○評価【観点】（方法） ※手立て
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の立場を思いやって行動した経験はありますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>※声の小さい生徒が発言するとき静かに聞いてあげる。遅刻してきた生徒に「おはよう」と声をかける。保健室に行った生徒を迎えに行き「一緒にいこう」と声をかける。</li> </ul>
展開	<p>めあて：相手の立場で出来事を振り返ったり、行動したりすることができるようにする。</p> <p>相手の置かれている立場を理解できるようにする。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「なみだ」をCDで聞く。</li> <li>・和美が部屋で一人で涙を流したのはどのような気持ちからだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手のけがの程度は縫って治ると押さえる。</li> <li>・ワークシート</li> <li>・和美の考えの変化 初め＝息子のことを考えての涙 後で＝私のことを思っていた S君の母親を誤解していた</li> </ul>
開	<p>・私がみんなに「たいしたことないよ。」と笑って安心させたのは、どのような気持ちの変化からか。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の立場になって考えたり、行動したりするためには、どのような心構えが必要か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシート</li> <li>・班で交流して発表させる。</li> <li>・なぜ「心配かけてはならない」「元気に登校しよう」と決意したか</li> <li>○ワークシート</li> <li>・人のため、学校のため、今立候補してる人は最低限どんなことができなければならないかを考えさせる。</li> <li>・自分のことだけしか考えられない生徒は、何が足りないのだろうかを考えさせる</li> </ul>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の感想を書く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> </ul>

# なみだ

( ) 組 ( ) 番 ( )

1、相手のことを考えて、行動した経験はありますか。


2、和美が (            部屋で一人で涙を流したのは            ) どのような気持ちだったでしょうか。


3、( みんなに「たいしたことないよ」と笑って安心させたのは ) どのような気持ちだったでしょうか。


4、相手の立場になって考えたり、行動したりするためには、どのような (    心構えが必要か。    )。


今日の感想




## なみだ

文 生徒作文

絵 浅倉田美子



雨降りの放課後、  
「昇降口がひどくよごれているね。当番の人たちは掃除をしてくれないか。」  
と先生に言われ、みんなで掃除を始めた。傘立てを洗い、ボール入れの整頓と順調に進んだ。一時  
間後、気の早い人たちが後始末を始めたころ、事件は起こった。

私はとびらのガラスを一生懸命がいていた。向こう側でもS君が同じようにみがいていた。その  
とき、ギョツととびらが動いた。痛いと感じたときはもうおそかった。私の指は、ぐつととびら  
の中に食いこまれてしまっていた。「キヤッ」という友達のさげび声が耳に飛びこんできた。指を  
おさえてしゃがみこんだ私に、だれかがハンカチを差し出した。私は友達に引つ張られて夢中で保  
健室にかけこんだ。保健室の先生は、すぐにガーゼを厚く巻いてくれた。そのとき、痛みがどつと  
おし寄せてきた。血が全部指先に集まってくるようだ。胸がドキドキした。

手を引かれて車に乗りこんだ。車は病院へ向かった。病院に着くと、すぐに治療が始められた。  
麻酔の注射が打たれた。ジョリジョリと肉を切開するのが分かった。そのうちに骨をけずる音が聞

こえた。私は目をつぶっていた。痛みがないのが不気味  
だった。傷口がぬい合わされ、厚く包帯が巻かれた。医  
者の「しつかりね。」という言葉聞いて外に出た。あせ  
びつしよりになっていた。

先生の車で家に帰った。夕方になると指先の固まったよ  
うな感じがうすれ、同時に激しい痛みを覚えた。指先がズ  
キズキと脈打ち、まるで体中の血が逆流したような感じ  
だった。

数時間後、私はとびらを動かしたS君とお母さんの  
訪問を受けた。S君は、玄関の外に立って足もとに視線を  
落としていた。

S君のお母さんは、けがの状況を聞きながら、幾度とな  
く、

「本当に、何と言ってよいか……。つらいでしょう。」

と言ひ、白い包帯を巻かれた指をじっと見て、首を垂れた。  
そのとき私は、S君のお母さんの目がだんだんうるんでき  
たのを見た。そしてついにほおを伝わって、なみだが流れ  
た。一瞬、私は頭を強く打たれたような感じになった。S  
君のお母さんは泣いている……。しかし、そのときは、私  
のことなんかより自分の息子の立場を考えて、泣いてわび  
ているのでは……。と思ったりした。二人が帰るとき、母  
はS君に、

「大丈夫だから気にしないでね。」





と声をかけた。私は母の気持ちは分かったが、指はもはやこらえきれぬほどの痛さだったので、実際には頭が混乱していた。

二人が帰ってから、私は自分の部屋に飛びこみ、さっきのことを改めて考えてみた。あのなみだは何のためだったのだろうか？

しばらく考えているうちに、S君のお母さんは、きつと私のために泣いたのだ、私のつらい気持ちを思って泣いたのだ、と思えてきた。そう思うと、不思議な感動がわいてきた。と同時に、心からあふれ出たなみだを信じようとしなかった自分が悲しく、腹立たしくなってきた。私は、すまない気持ちでいっぱいになり、とうとう泣きだしてしまった。

母が部屋に入ってきたが、私の様子を見ると、何も言わずに、私の代わりに布団をしてくれた。

その晩はなかなか寝つかれなかった。指はどうなるのだろうかと思うと、不安はつのるばかりだった。しかし、私がこのけがに負けてしまっただけなのではないのかと思った。そして、S君とS君のお母さんに心配をかけてはならない、明日は元気に登校しようと決意した。

翌日、事情を知って集まったみんなに、「たいしたことないよ。」

と笑って安心させ、S君の前ではできるだけ包帯をした指を見せないようにした。けがをしたほうよりさせたほうがつらいのではないかと思い、気が気ではなかった。そして自分自身、けがのことを忘れようと思った。

数日後、母と二人きりになったとき、母はいつになくしんみりと、

「お母さんね、あのとき和美が泣いたでしょ。あのなみだは和美が今まで流したなみだのうちで、いちばん価値のあるなみだのような気がする……。だって、あのとき、和美は自分のためじゃなくて、友達のため、友達のお母さんのために泣いたでしょ。指のこととも考えずに。」

と言ってほほ笑み、

「和美は優しいね。」と付け加えた。私は思いがけない言葉におどろいた。そして、言いつくせない思いで胸がいつぱいになった。

考えてみよう!

- ① 私がみんなに「たいしたことないよ。」と笑って安心させたのは、どのような気持ちの変化からか。
- ② 相手の立場になって考えたり、行動したりするためには、どのような心構えが必要か。



つた

.....

.....

.....